

凍結切片を用いた牛伝染性リンパ腫の病理組織検査の検討（第2報）

京都府中丹家畜保健衛生所

○吉崎康二郎 万所幸喜

【はじめに】ホルマリン固定パラフィン包埋標本（FFPE）による牛伝染性リンパ腫の病理組織学的検査は、解剖から診断まで通常7日間程度を要する。前回、検査時間の短縮を目的に100%アセトンを用いて固定した凍結切片標本について検証したところ、免疫染色における染色結果が不安定であった。今回、この問題を解消するため、凍結切片標本の固定方法をエタノール／ホルマリン原液／酢酸（100）混液（10：10：1）（EFA）に変更し検証。【材料及び方法】FFPEのHE染色により正常像を認めた1検体及び地方病性牛伝染性リンパ腫と診断した2検体の計3検体について、病理解剖時に採取した臓器やリンパ節の一部から凍結切片標本を作製し、EFAにより固定し、HE染色、抗CD79 α 及び抗CD3抗体を用いた免疫染色を行い、FFPEのものと染色性等を比較検討。【結果】HE染色では、凍結切片標本の固定にEFAを用いてもFFPEと同等に判別が可能。免疫染色でも3検体ともに、CD79 α 及びCD3のFFPEと同等な染色性を確認。FFPEでは判定に7日間程度要していたがEFAにより固定した凍結切片標本では3日間程度で可能。【まとめ】凍結切片標本の固定にEFAを用いることにより、判定時間を短縮しつつ、免疫染色において安定した染色性を確保できた。今後も症例数を増やし散发性牛伝染性リンパ腫の症例についても染色性を検証していく。